様式1 令和6年度　山梨県立甲府工業高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	新時代を主体的・創造的に生き、知徳体をそなえ、地域の希望となり未来となり光となって、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。

山梨県立甲府工業高等学校校長　　萱沼　恵光

本年度の重点目標	
	1　社会が必要とする人間力を育成する。
	2　基礎的基本的な学力の定着を図る。
	3　健全な心身を育成する。
	4　新しい時代に対応した教育活動を推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（令和7年1月16日現在）			実施日　（令和7年1月17日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	社会が必要とする人間力を育成する。	基本的生活習慣の定着を図り、規範意識を育む 教育活動全体を通して人間教育を行い、道徳性を養う 社会人としての基礎力を育成し、自らの考えで行動できる力を育む。 地域社会や企業と連携した活動を通して、社会の一員としての自覚と責任を持たせ、社会に貢献できる人を育てる。	毎日の始業前遅刻指導と遅刻者指導の実施 学校生活全体を通じて指導の徹底 社会性や情報モラルの形成と、交通事故・違反減少への指導 企業現場実習及びボランティア活動の実施	学校全体の出席率は、1学期が98．5%、2学期が97．8%であり、高い数値と考えられる。しかし、一部の生徒が遅刻、欠席を繰り返している状況である。 生徒指導では、交通マナーに関する問題が多く、通報等が多い状況である。甲府警察署より、自転車安全利用推進校の認定を受け、警察と連携した交通安全集会を実施した。また、保護者と共に行う登校指導を実施した。 企業実習をはじめ、企業と連携した授業を数多く実施し、生徒のキャリア形成につなげる取り組みを行うことができた。	B	遅刻、欠席を繰り返す生徒に対しては、学校での指導に加え、家庭教育の協力を得ていく必要がある。 警察と連携した交通安全集会や日頃からの交通指導などを充実させていくとともに、本校生徒が、地域から期待されていることを生徒と共有し、本校生であることに誇りを持たせることで、周囲に配慮した行動がとれるような指導が必要と考える。	3	・基本的な生活習慣の確立は、ほぼ達成されてきていて良い傾向が続いているように思う。高校生活全般の教育活動において社会に貢献できる人材を育成するには真に何を教えていくかを教師全体が真剣に向き合ってほしい ・出席率の高さや多くの生徒がいつも挨拶をしてくれる。しかし少数の遅刻を繰り返す生徒に対しては話し合いにおいて社会では深刻な問題であることを理解させ、改善に向かうことを望む。 ・甲府工業生は地域の産業人材として県内企業から大いに期待されている。地域創生、地域発展のための期待値も大きく、これからも地域の活性化に寄与していくことを望む。
2	基礎的基本的な学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。 学科の特色を生かし、基礎基本の上に専門的な知識や技術を身につけさせる。 目指す技術者をイメージさせ、資格取得・大会等への挑戦を通じて進路実現を図る。 教育活動全体を通してコミュニケーション力を育成する。	相互授業参観及び研究授業の実施、適切な観点別評価の実施 基礎基本の学習と専門的な学習の充実 資格取得指導の充実と大会参加の推進 教科指導の中での言語活動や面接及び小論文指導の充実	今年度より1年生の工業技術基礎と総合的な探究の授業において、生徒一人ひとりが自ら課題を見つけ解決していくことで、主体的・対話的で個別最適な学び、協働的な学びを育成するPBL（問題解決型）に工業科の教員を中心に取り組んだ。 専門学科における成果として、多くの資格取得、ものづくりコンテストへの出場を通じて、学習に対しての向上心を育ませることができたと考える。 生徒の学習成果を披露する生徒研究発表会ではポスターセッションの形式をとり、生徒一人ひとりが身に付けた知識・技術を言語活動で発表できる場とした。	B	問題解決型の授業改革にともないDX教育の研修を行い教職員の指導力向上に学校全体で取り組んだ。今後は、2年次に定着を図り、3年次は高校3年間の集大成である課題研究で生徒主体で個別最適な学び、協働的な学びに繋がるように指導をする。 資格取得、ものづくりコンテスト等への参加を通じ、専門科目を中心に学習意欲に対する向上を図る。 企業実習や企業と連携した授業を実施し、企業技術者と交流をすることで、コミュニケーション力を向上させていく。	3	・今後GPTに対応される生成系AI技術は、当たり前に使う技術であると思います。AI教育あるいは数理デザインサイエンス教育等を備えた能力を持った学生を育てる必要があると思う。 ・社会的・職業的自立に必要な力を身に付けることで地域社会や産業界に貢献できる人材が必要であると感じた。
3	健全な心身を育成する。	部活動・委員会活動をより活発に展開し、豊かな人間性を育む。また、その運営方法の適正化を図る。 体育・スポーツを積極的に推進し、体力・精神力の向上を図る。 健康、安全や食に関する教育を行い、自他の生命を尊重する心を育む。	部、委員会単位での年間指導目標・年間指導計画の作成と適切な休業日の設定 生徒へのきめ細やかな指導の確立 各教科での取り組みと各種講演会の実施	部・委員会活動を中心に、単なる課外活動ではなく、人間教育に重点を置いた指導を行ってきた。今年度は各種大会等が以前と同様に開催され、生徒は目標をもって、活動できたと考える。 数年に渡る新型コロナウイルス感染症の影響を受け、自己の健康管理や体力向上に対する意識が高まった様子が窺える。体育的行事の実施を通じ、健康に関する知識・技術を身に付けさせるとともに、実践させることができた。 心の不調を訴える生徒が増加しており、スクールカウンセラーと連携した学級経営や学年運営を行ってきた。	B	多くの生徒が部活動や委員会活動に参加しているが、遅刻や欠席を繰り返す生徒や、心の不調を訴える生徒は増加している。 家庭との連絡を密にとり、家庭教育の協力を得る等、連携を強めていく必要がある。また、スクールカウンセラー等と連携した学級経営や学年運営を充実させていく必要がある。	3	・今年度も運動部の活躍は目覚しいものがある。文化部も吹奏楽部、放送委員会等の活動は素晴らしい。また応援団、吹奏楽部が朝日町商店街、中学校、老人ホームに赴き演舞や演奏を披露するなど、地域のイベントで活躍していることも大いに評価できる。 ・自転車の「安全利用推進校の認定」について評価する。地域住民として甲府工業高校の生徒の交通マナーは良いと感じる。
4	新しい時代に対応した教育活動を推進する。	PBL（問題解決型学習）の導入において、学びのSTEAM化を実装することで、教員の「意識改革・授業改善」を図り、生徒主体の「学びの改革」を実現する。 系統的・体系的なキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育成する。 専攻科において、高度な知識や技術・技能、設計力の育成を推進する。 学校教育全体において、ICT機器を活用できる力を育む。 教員のワークライフバランスの実現を通して、健康で充実した教育活動や家庭生活を推進する。	工業技術基礎を問題発見・解決・協働で活動する授業展開を実施 キャリアパスポートの利用 専攻科のさらなる発展及び本科との交流の充実 授業、アンケート、外部への情報発信等でのBYOD端末の活用 勤務時間管理の徹底、公務の精選、部活動指導の軽減を図る。	今年度より1年生の工業技術基礎と総合的な探究の授業において、生徒一人ひとりが自ら課題を見つけ解決していくことで、主体的・対話的で個別最適な学び、協働的な学びを育成するPBL（問題解決型）に工業科の教員を中心に取り組んだ。 専門学科における各種コンテストや資格取得の成果から、生徒の知識・技能・技術は身に付いていると考えられる。今後は、知識・技術・技能を活用し、物事を探求していく力の育成が必要となる。 今年度より、生徒全員が学習端末を持つこととなるため、DX教育活動への研修を着実に進める必要がある。 専攻科創造工学科の修了生は、多くの県内企業から期待され、これに応じる教育活動の展開ができたと考える。 今年度から部活動において、OFFシーズンを定め生徒はもとより教職員のワークライフバランスを鑑み実施した。	A	問題解決型の授業改革にともないDX教育の研修を行い教職員の指導力向上に学校全体で取り組んだ。 資格取得、ものづくりコンテスト等への参加を通じ、専門科目を中心に学習意欲に対する向上を図る。 PBLに伴い2年次を中心に企業実習や企業と連携した授業を実施し、企業技術者と交流をすることで、課題解決能力を向上させていく。 3年次は高校3年間の集大成である課題研究で生徒主体で個別最適な学び、協働的な学びに繋がるように指導をする。 企業をはじめ、多くの外部機関が本校の教育活動を支援してくれる。今後も支援を受けることで、より質の高い教育活動を展開していく必要がある。 教職員のワークライフバランスを鑑み推進することで、それぞれが思い描く幸福といったウェルビーイングの実現に向けて推進する。	4	・企業現場実習が計画的に実施されており、就職活動等の将来を見据えた活動になっていると思う。 ・創造工学科専攻科において英語が伸びていないように思う。客観的評価と照らし合わせて主観評価と一致しているか研究してみてはどうか。 ・定時制のキャリア教育では、地元企業の技術者から技術提供を受けることで、山梨の産業を支えるスペシャリストはもとより地域社会に貢献できる産業人材を期待する。また創造工学科では、特有なカリキュラムを基に他校では真似ができないような企業との創造研究を通し生徒一人ひとりが自己実現に向けて自主自立の意識の高揚を図っている。 PBLでは教員主導の授業から生徒主体の授業へということだが、今後の課題であると同時に、生徒に自ら主体的に学んでいく資質能力を見つけさせていくことは、本校の重点事項と思う。

留意点（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。